

令和元年度 鳥栖市立田代小学校 学校評価計画

|   |   |
|---|---|
| <b>1 学校教育目標</b><br>「共に学び 心豊かに たくましく生きる児童」の育成<br>～ かしこく やさしく たくましく ～ | <b>2 本年度の重点目標</b><br>①教師の指導力を高め、個に応じたきめ細かな指導を充実させ学力向上を図る。<br>②人権教育、道徳教育、生徒指導、教育相談の充実を図り、思いやりのある豊かな心を育てる。<br>③安全教育、健康教育の充実を図り、健康増進と体力の向上を図る。 |
|---|---|

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

①教師の指導力を高め、個に応じたきめ細かな指導を充実させ学力向上を図る。

| 領域   | 評価項目       | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                                 | 具体的目標   | 具体的方策   |
|------|------------|--|---|---|
| 教育活動 | ●学力の向上     | ・基礎学力の定着   | ・12月の県調査で前年の結果を上回る。<br>・学習のしつけ「チャイム着席100%」「呼ばれたら返事をする95%」をめざす。<br>・家庭学習の量や質を向上させ、学年目標(1～3年30分程度・4～6年学年×10分)を90%以上がクリアできるようにする。<br>・「授業が分かりやすい」「授業が楽しい」と思う児童の割合、95%以上をめざす。 | ・田代タイムをさらに充実・徹底させ、基礎・基本の定着に努める。<br>・夏季休業中に、学習状況調査の結果分析を全職員で行い、本校の課題を共有し授業改善を図る。<br>・家庭学習の手引きを配布し、家庭への啓発を行い家庭学習の充実を努める<br>・各教師が「授業づくりのステップ1・2・3」のステップアップさせ、授業力の向上を図る。  |
|      |            | ・校内研究の推進<br>・読書週間の定着                               | ・授業中の話し合う活動を充実させるために、校内研の主題を国語科の「話すこと・聞くこと」し、全職員が研究授業に取り組み、授業力向上を図る。<br>・本に親しむ習慣を身に付けさせる。<br>・おすすめの本を紹介することで、量より質の高まりをめざす。  | ・講師を招聘し、年3回の全校授業研究会を実施する。また、3回のグループ研究会を実施する。<br>・読み聞かせグループ「よつばの会」と連携し読み聞かせを充実させる。<br>・学年ごとに「読んでおきたい30冊」を配布し読書の質的向上を図る。<br>・2か月に1回は、おすすめの本を紹介する。<br>・図書館祭りを2回開催し、様々な本に対する興味・関心を高めさせる。  |
|      | ○特別支援教育の充実 | ・個に応じた指導の充実<br>・校内支援体制の充実<br>・中原特別支援学校鳥栖田代分校との交流推進 | ・個別の指導計画の見直しと新規作成を行う。<br>・UDを生かした支援と授業づくり<br>・校内教育支援委員会を定期的且つ必要に応じて迅速に開催する。<br>・中原特別支援学校田代分校との交流を充実させる。   | ・個別の指導計画が現在作成されている児童については、夏季休業中に見直し、必要事項を記入する。また、新規に作成が必要な児童がいなければ検討し、必要があれば作成する。<br>・「田代のUD教育」を全職員共通理解のもと実践する。<br>・夏季休業中に講師招聘し、UDを生かした授業づくりについての研修を行う。<br>・特別な配慮が必要な児童の研修を、事例を交えて話し合い、全職員が周知できるようにする。<br>・不登校児童等の情報交換を毎週連絡会でを行い、全職員で支える体制をつくる。<br>・学校行事だけでなく、昼休み等のクラス単位での交流も行う。<br>・教師同士の合同研修会を実施する。 |

②人権教育、道徳教育、生徒指導、教育相談の充実を図り、思いやりのある豊かな心を育てる。

| 領域   | 評価項目          | 評価の観点<br>(具体的評価項目)  | 具体的目標  | 具体的方策   |
|------|---------------|---|--|---|
| 教育活動 | ●心の教育         | ・人権・同和教育の充実   | ・年1回以上、全学級で保護者が参加する「ふれあい道徳」の授業を行う。   | ・「ふれあい道徳」の実施にあたっては、配布した資料をもとに、人としての生き方を保護者と児童が共に考えるきっかけをつくる。<br>・平和集会や人権集会を行う。  |
|      |               | ・豊かな体験活動の積極的導入<br>・自己有用感をもち、互いを尊重する集団づくり                        | ・全学年で栽培活動や交流活動を行う。<br>・自分には「よいところがある」と思う児童90%をめざす。   | ・花いっぱい運動を実施し、育てた花を校区内の公共の場等へ贈る。<br>・地域の人材を積極的に活用し、全学年で交流を行う。<br>・「ほかほか通り」に友だちの良いところや頑張りを見つけて貼る取り組みを年間2回行う。  |
|      | ●いじめの問題への対応   | ・早期発見への取り組みの充実<br>・早期解決と再発防止へ向けた取り組みの充実                         | ・いじめ・命を考える日に全員にアンケートを行う。<br>・アンケート結果の共有といじめ防止対策委員会の機能強化を図る。<br>・いじめに関する職員研修を年3回行う。   | ・アンケート結果を迅速に管理職へ報告するシステムの確立を図る。<br>・アンケート実施日以降最初の児童支援連絡会で全職員情報共有を行う。<br>・事例研修等を含め、3回の研修を行い、いじめに対する職員の意識を高める。  |
|      | ○生徒指導・教育相談の充実 | ・全職員で見守る、校内体制の構築<br>・規律ある生活習慣づくり<br>・あいさつの励行取り組みの充実<br>・清掃活動の充実 | ・児童支援連絡会を週1回開催する。<br>・月の生活目標を提示し、常に意識した指導を行い、目標を守れた児童の割合90%以上をめざす。<br>・「元気にあいさつできる」児童の割合が95%以上をめざす。<br>・清掃用マスク着用率が90%以上をめざす。<br>・素早く清掃活動に取り組む学校をめざす。 | ・毎週水曜日の「子ども支援連絡会」で、定期的に教育的配慮を要する児童に関する情報や、生活面の課題を報告し合うことで全職員で共通理解を図りながら指導にあたる体制を作る。<br>・QUテストを実施し、学級づくりに生かすとともに、悩みの早期発見、早期対応を行う。<br>・スクールカウンセラーによる児童観察や、児童・保護者との面談を計画的に働きかける。<br>・あいさつ運動をクラス単位で行い、あいさつの意識付けを図る。<br>・登校時刻に校外において、地域でのあいさつ励行に取り組む。<br>・「お掃除コンテスト」を年2回実施し、マスク着用や取りかかり時間への意識を高める。<br>・一部縦割り掃除を取り入れ、下級生に上級生の取り組みを手本にさせ、清掃活動を充実させる。 |

③安全教育、健康教育の充実を図り、健康増進と体力の向上を図る。

| 領域   | 評価項目         | 評価の観点<br>(具体的評価項目)    | 具体的目標  | 具体的方策  |
|------|--------------|-----------------------|--|--|
| 教育活動 | ○安全・安心な学校づくり | ・安全指導の徹底と危険予知・回避能力の育成 | ・危機管理マニュアルを見直し、危機に際しての動きが迅速にできるようにする。<br>・児童の交通事故0件をめざす。<br>・ヘルメット着用率90%以上をめざす。<br>・防犯ブザー所持率95%以上をめざす。 | ・交通安全教室や防災、不審者避難訓練を通して危機管理意識を高める。<br>・週1回の地区別下校で交通安全の意識を高める。<br>・ヘルメット着用強化月間を設定して、着用を呼びかける。<br>・毎月15日に防犯ブザー点検を行い、所持していない児童には指導を徹底する。 |
|      |              | ●健康・体づくり              | ・健康増進に関する実践意欲の向上<br>・運動習慣の改善や定着化   | ・給食残渣を前年度以下をめざす。<br>・朝食喫食率95%をめざす。<br>・「昼休み外で遊ぶ」児童の割合90%をめざす。  |

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

| 領域   | 評価項目               | 評価の観点<br>(具体的評価項目)    | 具体的目標   | 具体的方策   |
|------|--------------------|-----------------------|---|---|
| 教育活動 | ●志を高める教育           | ・教科「日本語」の推進           | ・教科「日本語」の確実な実施により、地域や郷土を愛する気持ちを育む。<br>・全児童が、将来の夢とそのため今頑張っていることを話せることができる。 | ・全クラスで授業公開をおこない、地域の教材や人材を積極的に活用する。<br>・マナー教室で、将来の夢についての共通質問事項を設定し、小中9年間を通して自分の将来について考えさせる。  |
|      | ○小中一貫教育            | ・小中一貫教育の推進            | ・小中合同研修会の実施。<br>・マナー教室を年間2回実施する。<br>・学習規律、生活規律などの系統性のある指導の実施。             | ・全体研修会の実施と、各校の校内研究会への相互参加の促進を図る。<br>・発達段階に応じた集団面接を行い、マナーや表現力を身に付けさせる。<br>・各部会を開催し、前年度の反省を生かして新たな指導方針を立案する。  |
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ・業務改善                 | ・行事や会議の見直しを行う。<br>・職員の勤務実態を把握し、平均時間外労働時間を前年比マイナス10分をめざす。                  | ・指導部会を定例開催から、必要に応じた随時開催として、時間の有効活用を図る。<br>・職員会議の内容を精選し、1時間以内をめざす。<br>・夜間のPTA会合は、教職員の参加が必要な時だけにし、常時参加はしないようにする。<br>・定時退勤日の目標時刻を17:30とし、普段退勤時間が遅い職員へ重点的に声掛けをする。 |
|      | ○学校経営方針            | ・学校経営ビジョンの周知          | ・目指す児童像「かしこく やさしく たくましく」を保護者、児童の認知度を100%、区長、民生委員の認知度を100%にする。             | ・全校朝会やPTA総会、学級懇談会等で学校目標を児童、保護者に確認する場を多くとる。<br>・学校だよりやHP等及び地域の各種会議に於いて、周知する。   |
|      | ○開かれた学校づくり         | ・家庭や地域社会との連携<br>・情報公開 | ・地域人材の活用を年間6回をめざす。<br>・学校ホームページ更新を週に3回以上行う。<br>・学校便りの発行を月2回以上行う。          | ・各種団体の会合へ積極的に参加し、人材発掘に努める。<br>・学校便りを地域に配布回覧したり、ホームページを更新したり、報道機関への投げ込めたりして情報を積極的に発信する。<br>・地区の各種会議、区長会や民生児童委員会、地区懇談会、PTA役員会等で、情報を発信・収集する。                     |